

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330174

研究課題名(和文) 家庭訪問による子育て支援のニーズ適合性とそのマネジメントシステムに関する研究

研究課題名(英文) Study on whether support for child-raising by home visit meets the need of the home, and its management system

研究代表者

西郷 泰之 (SAIGO, Yasuyuki)

大正大学・人間学部・教授

研究者番号：30266241

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は大きく3つの柱を立て実施した。「ホームスタートの効果測定のための尺度開発と効果の測定」については、量的調査によりホームスタートの主活動である「傾聴」と「協働」の効果や、傾聴により心の健康が回復すると子育て力も上昇することが確認された。「ケースマネジメント技法・マニュアルの開発」では、国内外のインタビュー調査で、ジェネラリスト・ソーシャルワークの支援過程と類似していることが明らかにされ、この研究結果に基づきマニュアルを開発した。また「ホームスタートに関する基本データの収集とそのためのシステム開発」にも取り組み、全国の活動データの定期的な収集システムが完成し情報収集が可能となった。

研究成果の概要(英文)：The content and result of this study is the following 3 points.(1)Regarding “the development of the standard for measuring the effect of home-start and the real measurement”, the effect of “listening” and “collaboration”, which are main activities of home-start, and the way the effect appears (when suffering mothers recover their mental health, they can be confident in raising their children) were confirmed by conducting a statistics research.(2)Regarding “case management method and development of the manual”, it was revealed that the basic structure of helping manner by home-start is close to that of generalist-social work. As a result of it, the manual was developed by conducting an interview research at home and abroad.(3)The system to collect activity data periodically in the nation has been completed and, as a result, necessary information has become available by addressing “the collection of basic data on home-start and the development of the system for it”.

研究分野：社会福祉学

キーワード：家庭訪問 ホームスタート ホームビジティング 子育て支援 ボランティア 傾聴 地域福祉

1 研究開始当初の背景

(1) ホームビジティング(家庭訪問による支援)は、子ども家庭福祉の領域における世界的な潮流と言える。しかし、わが国では家庭訪問による実践の種類や供給量も少なく、支援サービスの職種・供給主体も限られている(西郷 2011)。また、支援の方法についてもシステムが確立されておらず、訪問担当者個人に支援の質の担保責任の全てが委ねられているという不安定な状況にある(西郷 2011)。

(2)また、本研究の開始時には、先行研究等は極めて少なく、研究上の課題は多かった(西郷 2011)。課題の主なものとしては適正なシステムに基づき安定的に実施されているわけではないことや、科学的効果の実証も不十分であること、種類は少ないものの様々な支援の主体や方法があるが、それぞれの固有の対象層や対象となるニーズが不明確であること、またプロシューマーやボランティアによる支援の役割や位置づけ・協働の方法が不明確であることなどである。

2 研究の目的

本研究の達成目標は三つある。一つ目の達成目標は、子育てニーズに関する効果測定の尺度開発を行い、母子保健や子育て支援領域におけるホームスタートの支援内容が、利用者の心的要因にどのような影響を与えているのかを縦断的に明らかにすることである。二つ目の達成目標は、ホームスタートのケースマネジメント技術・システムの開発と実践のためのマニュアル作成である。なお、両者の研究とも国際的な見地から海外での調査研究も実施し、国際的にも一般化できる研究結果を創出したい。三つ目は、ホームスタートの活動に関する基本データの収集とそのための

システム開発である。

3 研究の方法

三つの研究目的に対応させ、研究方法を下記にまとめる。

- (1) ホームスタートの効果測定のための尺度開発と効果測定(研究の達成目標 関係)
 - ・ホームスタートの効果測定のための尺度開発に係る文献調査
 - ・ホームスタートの効果測定に関する調査研究
 - ・国際会議での発表と討議(2014年9月ホームスタート・ワールドワイドのグローバル・カンファレンスで研究結果の中間報告と討議)
- (2) ホームスタートのケースマネジメント技法・マニュアルの開発(研究の達成目標 関係)
 - ・ケースマネジメント技法・システムに関する先行研究等の収集
 - ・マニュアル開発のためのインタビュー等調査(日本)
 - ・マニュアル開発のためのイギリスインタビュー調査(英国)
 - ・わが国のホームスタートにおけるケースマネジメント・マニュアルの開発
- (3) ホームスタートに関する基本データの収集とそのためのシステム開発(研究の達成目標 関係)

4 研究成果

- (1) ホームスタートの効果測定のための尺度開発と効果測定(研究の達成目標 関係)
 - 開発された尺度により効果測定を行った。ホームスタート支援の中核を成す「協働」と「傾聴」は、利用者の「満足度」を上昇させるキー・ファクターとして効果を発揮してい

ることが推察できた。具体的には、訪問回の初期段階から「協働」と「傾聴」は、有効に効果が発揮されることが確認された。しかし、訪問回の後半では、「協働」に対する利用者の活動への満足度の上昇が緩やかになったことから、ホームスタートの「協働」に対する方法および利用者ニーズの詳細把握の必要性があることが推測できた。また、「傾聴」は利用者への直接的な効果があるが、これに加えて利用者の心の健康を回復することで、子育て力の向上に寄与していた。

(2) ホームスタートのケースマネジメント技法・マニュアルの開発（研究の達成目標 関係）

ホームスタートのケースマネジメント技法の分析

国内調査とその分析によりソーシャルワークとの共通性が高いことが明確になった。オーガナイザーは調整的機能を持ち、ソーシャルワークの援助過程とほぼ同一の支援過程を踏み、その内容にはジェネラリスト・ソーシャルワークの特徴や基本視点が内包されていることが明らかにされた。オーガナイザーは、ソーシャルワークを実践する者であるといっても決して過言ではない。

イギリスにおけるホームスタートのインタビュー調査

イギリスでのインタビュー調査では、充実した研修や、スーパービジョンやトレーニングの体制、要保護や要支援など困難な状況にある家庭への支援、ソーシャルワークのスキルを持つオーガナイザーの存在などから、オーガナイザーの専門的な知識や技術は高い水準に到達している可能性が確認された。

ホームビジター養成講座実施前の面談やオーガナイザーを「雇用」する際の面談を用意

していることから、オーガナイザーやビジターになる人の適性を評価する丁寧な仕組みが整えられていた点も特筆される。

訪問支援活動の基本的な段階は日本のものと共通しているが、細かな部分では差異が見られ、且つ、そのような違いが許容されている。

支援の評価等、支援の質を一定に保つための全国的な仕組みが整えられていた。スキームの自己評価をチェックする仕組みや、ボランティアとしてのホームビジターの成長を確認できる仕組みなどである。

マニュアルの開発

マニュアルについては、これまで述べた調査結果に基づき検討し、下記のような構成とし開発した。

1 訪問活動における支援の組み立て

- (1) ホームスタートの基本的な性格
- (2) HS オーガナイザーと HS ホームビジターの役割分担

(3) 訪問支援の終結の意義

2 訪問活動の流れと心構え

- (1) 訪問活動の流れ
- (2) 訪問に際しての HS オーガナイザーの心構え

3 各段階の支援内容

- (1) 利用の申し込み
- (2) 初回訪問
- (3) 紹介訪問
- (4) HS ホームビジターの家庭訪問
- (5) 家族との評価訪問
- (6) HS ホームビジターとの評価

(3) ホームスタートに関する基本データの収集等（研究の達成目標 関係）

ホームスタートの支援情報の基礎データの

収集のため HS-QISS V2 を開発した。完成度の高いシステムを構築することができた。

一方で、さらなる改善も必要である。Web 方式への変更が最も効果的と思われる。この場合、Web 上で個人情報の安全性を担保することが重要になり、より難度の高い Web システムの構築が必要となるため、開発ならびに運用の大幅なコスト拡大が見込まれるため、今後の検討課題としたい。

データの収集については、集計項目は、訪問回数、利用者数、利用者ニーズ数や利用者評価など、基本的な集計にとどまっている。

居住地別、ふたご家庭、震災被災家庭、ひとり親家庭等、ある特定の範囲の利用家庭について、データを集計・分析する方法については、新システムに機能として備わっているが、まだ本格的な実用には至っていない。

5 主な発表論文等

[学会発表] (計 3 件)

野田 敦史・野澤 義隆(2015)「ホームスタートの効果 利用者の心理的変化に着目して」日本子ども家庭福祉学会全国大会(2015.6.7.西宮市)

野田 敦史・野澤 義隆(2014)「Effect of Home-Start in Japan」HSW Global Conference(2014.9.25.オスロ・ノルウェー)

野田 敦史・野澤 義隆(2014)「家庭訪問型子育て支援におけるホームスタートの位置とその役割に関する一考察」日本子ども家庭福祉学会全国大会(2014.6.8.新潟市)

[その他] (計 1 件)

研究代表者 西郷 泰之(2015)『家庭訪問による子育て支援とそのマネジメントシステムに関する研究 研究成果報告書』

6 研究組織

(1) 研究代表者

西郷 泰之(SAIGO, Yasuyuki)

大正大学・人間学部・教授

研究者番号 30266241

(2) 研究分担者

相原 真人(AIHARA, Masato)

静岡福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号 70522184

野田 敦史(NODA, Atsushi)

東京未来大学・こども心理学部・講師

研究者番号 60584018

野澤 義隆(NOZAWA, Yoshitaka)

立正大学・社会福祉学部・助教

研究者番号 20550859

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

山田 幸恵(YAMADA, Yukie)

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン 理事・事務局長

渡里 裕子(WATARI, Yuko)

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン 理事